



# さつきが丘 7月号

第294号

まなびあい みとめあい とものにのびよう さつきっ子



## 朝読書 読み聞かせ

校長 秋山 順子

梅雨の合間をぬって元気にはしゃぐ声がプールから聞こえてきます。

先日の土曜参観には、大勢の保護者の方にお越しいただきありがとうございました。とても関心の高い様子をうかがうことができ、多くの方々に支えられていることを実感しました。

さて、さつきが丘小には本好きな子どもたちがたくさんいます。入学前から本に親しみ、読み聞かせをたっぷりしてもらっている子が多いからではないでしょうか。しかし、昨年度の学校アンケートの「進んで本を読む」という項目において、約3割の子どもや保護者が「あまり思わない」と回答していました。その理由を探ると、本嫌いなのではなく、本を読む時間がなかったり、図書室を利用する機会が少なかったりするからだということがわかりました。



そこで、本年度から週1回の朝読書、月1回の読み聞かせを実施することにしました。5年生では、最初の読み聞かせが落語の「そばせい」でした。普段自分ではなかなか読まない本ですが、古典の学習をした後なので、子どもたちは目を輝かせ真剣に聞いていました。終わってから「この落語のシリーズ知っているよ。」「もっと読んでみたい。図書室で探してみよう。」と読んでもらった本について嬉しそうに話をする姿がみられました。

読書は、子どもの心を豊かにするといわれています。また、読み聞かせをすることで、語彙が増え、言葉の面白さを覚えます。絵本を通じて冒険気分を味わったり、いろいろなことに興味をもち楽しいと思えるようになってきたりと、子どもの世界を広げるきっかけにもなります。日本昔話などは、物語を通して悪いことをしてはいけない、よいことをすると幸せになれる、ということを知りやすく伝えてくれます。図書室で本を探していたある先生は、「偶然目に入った絵本をきっかけに、幼い頃その絵本を読んでもらった幸せな記憶が蘇ってきた。」と話していました。

本校のお話の会のボランティアさんは、今年で21周年の歴史があり、長い間読み聞かせをしてくれています。また、図書ボランティアさんは、本の修理や整理、四季折々の行事の飾りつけ、テーマに沿った本の紹介や展示などをしてくれています。図書委員会の子どもたちも、今年はおすすめの本を学年に合わせて紹介しています。様々な人たちのおかげで、子どもたちの読書環境が整えられていることに改めて気が付きました。

今後は広い廊下を活用して、本棚や気軽に本が手に取れるコーナーなど、いつでもすぐに本が読めるような環境づくりを、さらに工夫していきたいと考えています。ボランティアに興味・関心のある方は是非、活動の様子を見に来てください。

子どもたちの豊かな学びのために、これからもご支援ご協力をよろしくお願いいたします。